

わたしたちの生活と食糧生産 ～酪農の仕事体験しよう～

目 標

- ・酪農の盛んな地域では、どのような工夫をして、私たちの食糧生産を支えているのか理解する。
- ・直接酪農家と関わることで、酪農に携わる人々の願いや喜び、仕事にかける情熱にふれ、働くことの素晴らしさについて理解する。

育てたい力

- 日本の酪農業の概略や、酪農の仕事の様子を知り、我が国の食糧生産について考える。
- 働くことの大切さや苦勞を知り、自分たちの生活を支える人の仕事の様子に対し興味、関心を広げる。

主な学習活動（社会科：7時間、総合的な学習の時間：4時間）

酪農の盛んな地域  
(8月)

- ・わたしたちが普段口にしているものは、どこで、どのように生産されているか学習した。
- ・北海道の酪農や乳製品の生産について学習し、酪農への関心を高めた。
- ・酪農家の工夫や苦勞、願いを知りたいという課題をもった。



酪農体験  
タカトシ牧場  
(9月)

- ・「ふれあい体験」「手作りバター作り」などから、生き物を相手にする仕事の楽しさや面白さを実感することができた。
- ・「搾乳体験」などから、酪農業の大変さや苦勞を実感することができた。
- ・酪農家の話を聞くことで、「働く」ことの意義深さについて、考えるきっかけとなった。

これからの食糧生産と  
わたしたち  
(9月)

- ・体験を生かし、食の安全・安心への取組の事例を調べた。
- ・これからの食糧生産をどのように進めたらよいか考えた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「日頃体験できない、乳搾りができて楽しかった。」「搾りたての牛乳は温かくて美味しかった。」「バターの作り方が知れてうれしかった。」「地震などで、電気が止まった時も、牛の世話をしなければならぬので、大変だと思った。」などの感想が寄せられた。



取組の成果

身近な食材が生産される様子を知ることで、食に対する興味・関心が高まった。これからの食糧生産を考える学習に繋がる体験となった。また、生産者から、働くことの楽しさや喜び、苦勞などの話を聞くことで、自分の食生活を見直すきっかけとなった。今回の訪問が胆振東部地震の後だったこともあり、電気が通らない中、酪農家が必死に牛や豚の命を守った事実を知り、働くことや命の大切さを改めて実感することができた。

体験先、関係機関

むらかみ牧場（恵庭市）